



最初にお読みください

CentreCOM® 8948XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8948XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0021-10 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.L）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.9.2-14

2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 2.9.2-07 から 2.9.2-14 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 IPv6 over IPv4/6to4 トンネルインターフェースにおける MSS クランプ機能

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IPv6」](#) / [「IPv6 インターフェース」](#)


IPv6 over IPv4 および 6to4 トンネルインターフェースにおいて、IPv6 上の TCP Syn パケットを監視し、TCP ヘッダー内の MSS オプションの値が 1220 を超える場合、同オプションの値を 1220 に書き換える MSS クランプ機能をサポートしました。本機能はつねに有効であり、無効にはできません。また、MSS の値は 1220 固定です。

なお、本機能では、IPv6 パケットが IPv4 パケットにカプセル化される時点で、IPv6 パケット内 TCP Syn パケットの MSS オプション値を書き換えます。IPv6 パケットのカプセル化を解除するときは、書き換えを行いません。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 2.9.2-07 から 2.9.2-14 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

3.1 ログメッセージタイプの名称変更


 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「ログ」](#)

DNS 関連のログメッセージタイプの名称が、IPDNS から DNS に変更になりました。本仕様変更ともない、以前のバージョンの設定で以下のコマンドの MODULE パラメーターに IPDNS を指定している場合は、DNS へ変更してください。

- 以前のバージョンでの設定（変更前）
ADD LOG OUTPUT [MODULE=IPDNS]
SET LOG OUTPUT FILTER [MODULE=IPDNS]
SHOW LOG [MODULE=IPDNS]
- 本バージョンでの設定（変更後）
ADD LOG OUTPUT [MODULE=DNS]

SET LOG OUTPUT FILTER [MODULE=DNS]
SHOW LOG [MODULE=DNS]

3.2 SHOW INTERFACE COUNTERS の表示変更


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

本バージョンより、下記のコマンドで 64 ビットの MIB カウンター ifHCInOctets と ifHCOctets が表示されるようになっていますが、これらのカウンタは未サポートです。

- ・ SHOW INTERFACE (COUNTERS オプション指定時)

また、MIB オブジェクト ifHCInOctets と ifHCOctets も同様に未サポートとなります。

3.3 SHOW IP DNS / SHOW IP DNS CACHE コマンドの表示変更

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

該当コマンドの表示項目が一部変更になりました。

- SHOW IP DNS コマンド

```

Manager > show ip dns

DNS Server Configuration
-----
Domain                Int/Status  Server Addr Preference  Requests
Primary (v4)          Primary (v6)
Secondary (v4)        Secondary (v6)
-----
ANY*                   ppp0/Up    Prefer IPV4          3
200.100.10.1          Not set
200.100.10.2          Not set
-----

Cache:
Maximum entries ..... 30
Current entries ..... 2 (592 bytes)
Timeout (minutes) ..... 10
Cache hits ..... 1

Global configuration:
IP RR Type query preference ..... IPV4

```

以下は変更／追加された項目です。


Primary (v4)	プライマリ DNS サーバーアドレス。未設定の場合は 0.0.0.0 と表示される。サーバーアドレスを動的に取得しているときは、該当インターフェースがダウンだとアドレスは未設定状態となる
Secondary (v4)	セカンダリ DNS サーバーアドレス。未設定の場合は 0.0.0.0 と表示される
Primary (v6)	未サポート
Secondary (v6)	未サポート
Server Addr Preference	未サポート (Prefer IPV4 のみ表示)
Global configuration セクション	DNS の全体設定が表示される

IP RR Type query preference	未サポート (IPv4 のみ表示)
-----------------------------------	-------------------

- SHOW IP DNS CACHE コマンド

表示項目名の「IP Address」が「IPv4 Address」へ変更されました。

3.4 DHCPv4 サーバーの仕様変更

 **「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」**

DHCPv4 サーバー機能において、DHCP クライアントに配布した IP アドレスが重複していた場合、DHCP クライアントが送信する DHCP DECLINE メッセージを受信しても同じ IP アドレスを再配布することがありましたが、異なる IP アドレスを再配布するように仕様変更しました。

4 本バージョンで修正された項目


ソフトウェアバージョン **2.9.2-07** から **2.9.2-14** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 起動時にトリガースクリプトが実行される際、スクリプトファイルのファイル名（ベース名）が9文字以上だと該当スクリプトを正常に実行できない場合がありますが、これを修正しました。
- 4.2 スイッチポートの DESCRIPTION を削除した際に、SHOW INTERFACE COUNTERS で表示されるスイッチポートのインターフェース名がデフォルトの表示に戻りませんでしたが、これを修正しました。
- 4.3 STP を有効にしている場合、EPSR のデータ VLAN に所属していない VLAN のタグポートで送受信が行えず、EPSR リングを組めないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.4 OSPF が設定された IP インターフェースを通じてパケットを送信中に、同 IP インターフェースを削除すると機器が再起動していましたが、これを修正しました。
- 4.5 BGP で使用するルートマップの設定を繰り返し変更するとリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.6 DVMRP を使用したマルチキャストルーティング環境において、同一 VLAN に複数のホストが存在するとき、ホストが接続されているポートの1つがリンクダウンすると、他のポートに接続されたホストへのマルチキャストトラフィックも一時的に停止することがありましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項


ソフトウェアバージョン **2.9.2-14** には、以下の制限事項があります。

5.1 RADIUS

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」**


- 複数の IP インターフェース (IP アドレス) を設定している場合、RADIUS Access-Request パケットの始点 IP アドレスと NAS-IP-Address の値が異なることがあります。両者を一致させたい場合は、RADIUS サーバーの指定時 (ADD RADIUS SERVER コマンドの実行時) に、LOCAL パラメーターでローカル IP インターフェースを指定してください。
- RADIUS サーバーを複数登録している場合、最初に登録した RADIUS サーバーに対してのみ、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターが正しく動作しません。最初の RADIUS サーバーへの再送回数のみ、RETRANSMITCOUNT の指定値よりも 1 回少なくなります。

5.2 ログ

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」**

- CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターが機能しません。
- スクリプトの実行結果を Syslog サーバーに転送すると、20 行分しか送信されません。


5.3 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

- イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- プライベート MIB の fanAndPsPsuPresent において、電源ユニットが装着されていないという状態を正しく表現できません。Bay 1 (PSU1) 側に電源ユニットが装着されていない場合、本製品は値を返しません。
- ポートランキングを使用しているとき、SHOW INTERFACE コマンドに COUNTERS パラメーターを指定して実行すると、トランクグループのカウンター値が 0 のまま増加しません。SHOW INTERFACE コマンドの INTERFACE パラメーターにトランクグループ名を指定して実行すると、正しいカウンター値が表示されるようになります。
- プライベート MIB の atrMacBasedAuthPaeState において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ authenticated(5) になるべき MIB の値が、authenticating(6) になります。
 - ・ held(7) になるべき MIB の値が、aborting(6) になります。
 - ・ SET PORTAUTH PORT コマンドで「SET PORTAUTH=MACBASED PORT=5 CONTROL=AUTHORISED!UNAUTHORISED」を設定しても、MIB の値が forceAuth(8) または forceUnauth(9) にならず、initialise(1) になります。
- プライベート MIB の atrMacBasedAuthControlledPortStatus において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ 認証を行っていないにもかかわらず MIB の値が unauthorised(2) にならず、authorised(1) になります。

- ・ SET PORTAUTH PORT コマンドで「SET PORTAUTH=MACBASED PORT=xx CONTROL=AUTHORISED|UNAUTHORISED」を設定しても、MIB の値が forceAuth(10) または forceUnauth(12) にならず、never(1) になります。
- LC コネクタを持つ SFP ポートの ifJackType (ポート形状を示す変数。MAU MIB) が正しくありません (「fiberSC」となります)。
- プライベート MIB の restart の値を Get Next Request では取得できません。Get Request ならば取得できます。

5.4 NTP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」


SET NTP UTCOFFSET=NONE を実行した後、設定を保存して再起動すると、起動時に「Invalid zone or time for UTC off set.」というエラーメッセージが表示されます。タイムゾーンをデフォルト値に戻す場合は、SET NTP UTCOFFSET=UTC (または GMT) のように指定してください。

5.5 TELNET コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」


TELNET コマンドの実行時に DNS サーバーへの問い合わせが行われた場合、DNS サーバーからの応答に IPv6 アドレスが含まれていると、TELNET コマンドが反応しなくなります。

5.6 BPDU フォワーディング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」


BPDU フォワーディング有効時、受信した BPDU に 4 Byte のデータを付加して転送します。

5.7 ポートトランッキング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


コマンドの入力順によっては、トランクグループ内にタグなしポートとタグ付きポートの両方を所属させてもエラーになりません。これを回避するため、トランクグループの作成は (1) メンバーポートのタグ設定、(2) トランクグループの作成、の順に行ってください。

5.8 タグ VLAN

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」


すべてのポートをメンバーとするタグ VLAN を大量に作成し、各 VLAN に IP アドレスを割り当てている場合、いずれかのポートがリンクダウンすると一時的にコンソールの反応が悪くなります。

5.9 マルチプル VLAN

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」


マルチプル VLAN (Private VLAN) において、プライベートポート配下の端末から本製品への Telnet 接続が可能になっています。

5.10 スパニングツリープロトコル (STP/RSTP)

 **参照** [コマンドリファレンス] / [スイッチング] / [スパニングツリー (STP/RSTP)]


- スパニングツリープロトコル (STP) 有効時、スイッチポートがリンクダウンしても STP のポート状態が Forwarding のまま変化しません。このため、スパニングツリーの再構成にかかる時間が最大エージタイム (MaxAge) の分だけ長くなります。
- ポートトラッキング (または LACP) とスパニングツリープロトコル (STP/RSTP) を併用する場合、トランクグループのマスターポートがリンクダウンすると、トランクグループ内の他のポートが正常にリンクしているにも関わらず Topology Change が発生します。

5.11 マルチブルスパニングツリープロトコル (MSTP)

 **参照** [コマンドリファレンス] / [スイッチング] / [マルチブルスパニングツリープロトコル]


- マルチブルスパニングツリープロトコル (MSTP) の使用時、ワイヤーレートの通信が行われていると、Topology Change が発生することがあります。
- VRRP と MSTP の併用時、エッジポートでないポートに対して EDGEPORT=YES (SET MSTP CIST PORT コマンド) の設定を行うと、切り戻し時に VRRP が正しく動作しない場合があります。これを回避するため、エッジポートでないポートには EDGEPORT=YES の設定を行わないようにしてください。

5.12 イーサネットリングプロテクション (EPSR)

 **参照** [コマンドリファレンス] / [スイッチング] / [イーサネットリングプロテクション]


複数の EPSR ドメインを設定している場合でも、SNMP では直前に変更のあった 1 つの EPSR ドメインに関する情報しか取得できません。

5.13 フォワーディングデータベース

 **参照** [コマンドリファレンス] / [スイッチング] / [フォワーディングデータベース]


- ルーティングパケットと本体 (CPU) 宛てのパケットに対して、フォワーディングデータベース (FDB) のスタティックエントリーが機能しません。
- フィルタリング対象の MAC アドレスを持つ機器が、PORT パラメーターで指定したとは異なるポートに接続されている場合、本製品から該当 MAC アドレスに宛てたパケットに対して、ACTION=DISCARD のスタティックエントリー (スイッチフィルター) が正しく機能しません。

5.14 QoS

 **参照** [コマンドリファレンス] / [スイッチング] / [QoS]


- MAXBURSTSIZE と MINBURSTSIZE を 0 に設定した場合、メータリングが正しく動作しません。
- IPv6 QoS ポリシー用のクラシファイアにおいて、MACSADDR パラメーターが動作しません。

5.15 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」


- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVETIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで $\text{TIMEOUT} \times (\text{RETRANSMITCOUNT} + 1)$ の値を SERVETIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVETIMEOUT の設定が正しく機能します。
- RADIUS サーバーによってダイナミック VLAN を割り当てられた Supplicant がリンクダウン、ログオフなどで存在しなくなった場合、プライベート MIB の AuthPreAuthVlan、AuthPostAuthVlan が不正な値を返します。
- ポートの 802.1X 認証機能をいったん無効にしてから再度有効にすると、Authenticator は Supplicant の MAC アドレスをゲスト VLAN 上で学習しません。
- MAC ベース認証において再認証に失敗しても、プライベート MIB の atrMacBasedAuthUnauthenticated トラップが送信されません。

5.16 ディレクティッドブロードキャストパケット

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


特定 VLAN に対するディレクティッドブロードキャスト転送をオンにしている場合、ブロードキャスト MAC アドレス (FF-FF-FF-FF- FF-FF) 宛でのディレクティッドブロードキャストパケットを (別 VLAN で) 受信すると、それ以降、本体 MAC アドレス宛てに送信された通常のディレクティッドブロードキャストパケットを転送できなくなります。

5.17 32ビットマスクのスタティック経路

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


本製品のインターフェースに直結されたセグメントの IP アドレスについて、32 ビットマスクのスタティック経路を追加した場合、内部テーブルから既存のホスト経路が削除されず、追加したスタティック経路での通信ができません。これを回避するには、追加するスタティック経路の該当ホストをネットワークから切り離し、DELETE IP ARP=x.x.x.x で該当ホストの ARP エントリーを削除した上で、スタティック経路を追加し、その後該当ホストを新経路に適合するポートへ接続してください。

5.18 ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」


ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース) にブロードキャストアドレスを指定してもエラーになりません。ローカル IP インターフェースに IP アドレスを割り当てるときは、割り当てようとしている IP アドレスがご使用のネットワークにおいて利用可能なものであるかどうかを確認してください。

5.19 ADD IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」


ADD IP ROUTE コマンドで METRIC1 パラメーターに値を指定し、METRIC2 パラメーターには値を指定しない場合、METRIC2 パラメーターに省略時の 1 が設定されず、METRIC1 パラメーターで指定した値が設定されます。

5.20 OSPF

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」


- SET OSPF コマンドで DEFROUTE=OFF を指定しても、デフォルトルートの AS 外部 LSA を生成します (DEFROUTE=OFF が機能しません)。
- 隣接ルーターとの通信状態が「Attempt」(静的設定された隣接ルーターとの通信を試行中)であっても OSPF Hello パケットを送信しません。
- ADD/SET OSPF REDISTRIBUTE コマンドで SUBNET=OFF を指定しても、クラスフル、クラスレス両方の経路を取り込みます (SUBNET=OFF が機能しません)。
- 本バージョンでは OSPF の仮想リンクを使用できません。仮想リンクを使用する場合は、バージョン 2.9.1-21 以前のファームウェアをご使用ください。

5.21 DNS キャッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

5.22 DNS リレー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DNS リレー」

DNS リレーと DNS キャッシュの併用時、あるドメインの IPv6 アドレス (AAAA レコード) が DNS キャッシュに登録されている状態で、DNS クライアントから該当ドメインの IPv4 アドレス (A レコード) に対する問い合わせを受けた場合、キャッシュ済みの IPv6 アドレスを返答してしまいます。またこれとは逆に、あるドメインの IPv4 アドレス (A レコード) がキャッシュされている状態で、該当ドメインの IPv6 アドレス (AAAA レコード) を要求された場合、キャッシュ済みの IPv4 アドレスを返答してしまいます。この事象を回避するには DNS キャッシュ機能を無効化してください。

5.23 IPv6 インターフェース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」

- 6to4 トンネルは、本製品 1 台につき 1 個だけをサポートします。
- 6to4 トンネルコマンドを保存し、再起動するとエラーメッセージが出力されます。(動作に問題はありませぬ)

5.24 IP マルチキャストルーティング全般 (IGMP + DVMRP, PIM-DM, PIM-SM)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#)


IP マルチキャストルーティング機能 (IGMP + DVMRP, PIM-DM, PIM-SM) の有効時、多くのグループ (1000 グループ程度) に宛てたマルチキャストストリームを同時に送受信すると、CPU 使用率が 100% 近くになり、コンソールの反応が一時的に低下するなどの現象が発生することがあります。

5.25 DVMRP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「DVMRP」](#)


DVMRP インターフェースを削除し、再度追加した場合、該当インターフェース上の DVMRP 経路がホールドダウン状態のままとなります。

5.26 PIM-DM/PIM-SM

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「PIM」](#)

- (PIM-DM) Assert が発生する環境において、Assert Timer 満了時にデータをフラッシングすることなく再 Assert するため、下流ルーターがマルチキャストデータを受信できなくなることがあります。このようなときは、SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターを 180 秒未満に設定してください (デフォルトは 210 秒。20 ページの「6.40 PIM-DM/PIM-SM」もご参照ください)。
- (PIM-DM) Prune 中に上流ルーターの Generation ID が変更されても Prune メッセージを再送せず、結果として、次の Prune メッセージを送信するタイミングまで不要なマルチキャストトラフィックを受信してしまいます。
- (PIM-SM) すべてのポートがリンクダウンしている状態で ADD PIM BSRCANDIDATE コマンドを実行すると、警告メッセージが表示されます。

5.27 IGMP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP」](#)


Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。


5.28 IGMP Snooping

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP Snooping」](#)

SET IGMPSPNOOPING ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。

5.29 VRRP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「VRRP」](#)

ポートセキュリティと VRRP を併用する環境において、マスタールーターから受け取った VRRP パケットのバーチャル MAC アドレスがバックアップルーター側で重複して登録されることがあります。この現象は、バックアップルーターがいったんマスターに移行し、その後バックアップに戻った場合に発生します。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正


取扱説明書とコマンドリファレンスの補足事項および誤記訂正です。

6.1 FAULT LED の 3 回点滅

 **参照** 「取扱説明書」 27 ページ 「ステータス LED」

取扱説明書には記載がありませんが、FAULT LED（赤）の 3 回点滅（3 回の速い点滅と約 1 秒間の消灯時間）は、「本製品内部のファン、あるいは、内部温度の取得に失敗した」ことを示しています。

6.2 フィーチャーライセンスの品番について


 **参照** 「コマンドリファレンス」

コマンドリファレンスに記載されているフィーチャーライセンスの品番は次のように読みかえてください。

AT-FL-09 → AT-FL-09 または AT-FL-09-B

品番末尾の「-B」の有無による機能的な差異はありませんが、「-B」なしのライセンスは販売を終了しているため、新規ご購入時は「-B」付きのライセンスをお買い求めください。

6.3 SET OSPF コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」


コマンドリファレンスに記載のパラメーターの説明について、以下のように訂正してお詫びします。

SET OSPF コマンド DEFROUTE パラメーター

【誤】 DEFROUTE: デフォルトルート (0.0.0.0) の AS 外部 LSA を生成し、AS 内に通知するかどうか。本パラメーターは ASBR として設定した (ASEXTERNAL=ON) 場合のみ有効。デフォルトは OFF


【正】 DEFROUTE: ASBR に手動でデフォルトルートを設定していない場合に、ASBR をデフォルトルート (0.0.0.0) とした AS 外部 LSA を ASBR 自身に生成させ、AS 内に通知するかどうか。本パラメーターは ASBR として設定した (ASEXTERNAL=ON) 場合のみ有効。デフォルトは OFF

6.4 HTTP サーバー (サポート対象外)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」


本製品はデフォルトで HTTP サーバー (サポート対象外) が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

6.5 コンパクトフラッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

コンパクトフラッシュ (CF) 上のファイルを起動時設定ファイルに指定することはできません。

6.6 ADD USER コマンド、SET USER コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ユーザー認証データベース」

コマンドリファレンスに記載されている ADD USER コマンド、SET USER コマンドの USER パラメーター、PASSWORD パラメーターに使用可能な文字を下記のとおり補足・訂正します。

[USER パラメーター]

誤:

login-name: ログイン名 (1 ~ 64 文字。英数字のみ使用可能。大文字小文字を区別しない。空白不可)

正:

login-name: ログイン名 (1 ~ 64 文字。大文字小文字を区別しない。空白不可。入力可能文字: !#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>@ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ[\]^_`abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{|})

[PASSWORD パラメーター]


誤:

password: パスワード (1 ~ 32 文字。任意の印刷可能文字を使用可能。大文字小文字を区別する。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

正:

password: パスワード (1 ~ 32 文字。大文字小文字を区別する。空白を使用する場合、全体をダブルクォーテーション(")で囲む。入力可能文字: !#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>@ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ[\]^_`abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{|})

6.7 弊社 CentreNET SwimRadius (Ver.1.1 pl 0 以前) 使用時の注意


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

本製品自身 (コマンドラインインターフェース) へのログイン認証に弊社 CentreNET SwimRadius の **Ver.1.1 pl 0 以前** を使用する場合は、以下の点にご注意ください。

なお、**Ver.1.1 pl 1 以降** の SwimRadius は、ユーザーごとに Service-Type 属性の有無と値を設定できるようになっているため、下記の制限はありません。

- **Ver.1.1 pl 0 以前** の SwimRadius は、Telnet で接続してきたユーザーの認証要求に対して Access-Accept (認証成功) を返すとき、Service-Type 属性を付加しますが、同属性の値としてはつねに Administrative(6) をセットするため、**Ver.1.1 pl 0 以前** の SwimRadius によって認証された Telnet ユーザーは、つねに Security Officer レベルでログインすることとなります。
- **Ver.1.1 pl 0 以前** の SwimRadius は、コンソールポート経由で接続してきたユーザーの認証要求に対して Access-Accept (認証成功) を返すときに Service-Type 属性を付加しません。本製品は Service-Type 属性のない Access-Accept を受信した場合は該当ユーザーのログインを許可しないため、コンソールポート経由のログイン認証を **Ver.1.1 pl 0 以前** の SwimRadius で行うことはできません。

6.8 DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」**

DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義を使用するときは、ログの送信側と受信側で同一ファームウェア（ファイル名とバージョンが同じもの）を使用してください。それ以外の構成はサポート対象外とさせていただきますのでご注意ください。

6.9 CREATE LOG OUTPUT コマンド、SET LOG OUTPUT コマンド

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」**

コマンドリファレンスに記載されている CREATE LOG OUTPUT コマンド、SET LOG OUTPUT コマンドのパラメーター説明を下記のとおり補足・訂正します。CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターは機能しません。

[MAXQUEUESEVERITY パラメーター]

誤：

QUEUEONLY パラメーターに YES を指定した（キューがいっぱいになるまでログを出力しない）ときに、すぐに出力せずにキューに入れる最大のログレベルを指定する。QUEUEONLY が YES のときは、MAXQUEUESEVERITY よりも低いログレベルのメッセージは、キューの長さが MESSAGES パラメーターの値に達するまでキューイングされる。一方、MAXQUEUESEVERITY 以上のログレベルを持つメッセージが生成されたときは、ただちにキューがフラッシュ（処理）される。OUTPUT パラメーターに TEMPORARY を指定しているときは、本パラメーターは指定できない。デフォルトは 7、すなわちキューがいっぱいにならないうちに処理されるのは、最高のログレベルを持つメッセージが来たときだけとなる。

正：

QUEUEONLY パラメーターに YES を指定した（キューがいっぱいになるまでログを出力しない）ときに、すぐに出力せずにキューに入れる最大のログレベルを指定する。QUEUEONLY が YES のときは、MAXQUEUESEVERITY よりも低いログレベルのメッセージは、キューの長さが MESSAGES パラメーターの値に達するまでキューイングされる。一方、MAXQUEUESEVERITY 以上のログレベルを持つメッセージが生成されたときは、ただちにキューがフラッシュ（処理）される。DESTINATION パラメーターに SYSLOG を指定しているとき、および、OUTPUT パラメーターに TEMPORARY を指定しているときは、本パラメーターは指定できない。デフォルトは 7、すなわちキューがいっぱいにならないうちに処理されるのは、最高のログレベルを持つメッセージが来たときだけとなる。

[MESSAGES パラメーター]

誤：

DESTINATION が NVS か MEMORY のときは、保存するメッセージの最大数。最大値に達したときは、古いメッセージから順番に削除される。DESTINATION が EMAIL の場合は、一度に送信されるメッセージの数。DESTINATION が MEMORY のときのデフォルトは 200、EMAIL のときは 100。NVS のときは 20。

正：

DESTINATION が SYSLOG の場合は、キューの長さ。DESTINATION が NVS か MEMORY のときは、保存するメッセージの最大数。最大値に達したときは、古いメッセージから順番に削除される。DESTINATION が EMAIL の場合は、一度に送信される

メッセージの数。DESTINATION が SYSLOG のときのデフォルトは 20、MEMORY のときのデフォルトは 200、EMAIL のときは 100。NVS のときは 20。

[QUEUEONLY パラメーター]


誤:

キューがいっぱいになるまでメッセージを処理しないかどうか。OUTPUT に TEMPORARY を指定した場合は、本パラメーターは指定できない。デフォルトは NO。

正:

キューがいっぱいになるまでメッセージを処理しないかどうか。OUTPUT に TEMPORARY を指定した場合は、本パラメーターは指定できない。DESTINATION に SYSLOG を指定した場合本パラメーターは動作しない。デフォルトは NO。

6.10 NTP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」**

Windows XP 標準の NTP クライアントから NTP 要求を受信しても応答しないことがあります。これは Windows XP の仕様によるものです。

6.11 SET TELNET コマンド

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」**

コマンドリファレンスに記載されている SET TELNET コマンドの MAXSESSIONS パラメーターの設定値とパラメーター説明を下記のとおり補足・訂正します。

[MAXSESSIONS パラメーター]

誤:

[MAXSESSIONS=0..30]

同時確立可能な Telnet セッションの最大数。セッション数が最大に達すると、それ以降のセッション確立要求は拒否される。0 を指定すると Telnet 接続が不可となる。なお、コマンド入力時点で確立されているセッション数 (SHOW TELNET コマンドの「Telnet Current Sessions」欄) よりも小さい値に設定することはできない。デフォルトは 30。

正:

[MAXSESSIONS=1..32]

MAXSESSIONS: 同時接続可能な Telnet セッション数。ここで設定した値のセッション数になると、次に張ろうとするセッションが破棄される。また、設定する際に確立されているセッション数以下の値は設定できない。デフォルトは 32。

6.12 SHOW TELNET コマンド

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」**

コマンドリファレンスに記載されている SHOW TELNET コマンドの入力・出力・画面例を下記のとおり補足・訂正します。

[入力・出力・画面例]

誤：

```
Manager > show telnet
TELNET Module Configuration
-----
Telnet Server ..... Enabled
Telnet Server Listen Port ..... 23
Telnet Terminal Type ..... UNKNOWN
Telnet Insert Null's ..... Off
Telnet Com Port Control ..... Disabled
Telnet Current Sessions ..... 0
Telnet Session Limit ..... 30
Telnet Idle Timeout ..... Off
-----
```

正：

```
Manager > show telnet
TELNET Module Configuration
-----
Telnet Server ..... Enabled
Telnet Server Listen Port ..... 23
Telnet Terminal Type ..... UNKNOWN
Telnet Insert Null's ..... Off
Telnet Com Port Control ..... Disabled
Telnet Current Sessions ..... 0
Telnet Session Limit ..... 32
Telnet Idle Timeout ..... Off
-----
```

6.13 ユーザープライオリティー 6～7 のブロードキャスト転送レート

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

ユーザープライオリティー (802.1p) 6～7 を持つブロードキャストパケットの転送レートは約 50% です。

6.14 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャスト MAC アドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。


ただし、ENABLE IP MACDISPARITY コマンドを実行した上で、マルチキャスト MAC アドレスのスタティック ARP エントリーを登録すれば、このマルチキャスト MAC アドレスを送信元とする Ethernet フレームを転送させることが可能です。


6.15 拡張モジュール AT-MG8T

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

拡張モジュール AT-MG8T は 1000Mbps 通信のみのサポートとなります。コマンドで設定可能な通信モードは AUTONEGOTIATE のみです。


6.16 ポート帯域制限機能と重み付きラウンドロビンスケジューリングの併用について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「QoS」](#)

送信ポートの帯域制限機能 (EGRESSLIMIT) と QoS の重み付きラウンドロビンスケジューリング (WRR) は併用できません。

6.17 SET SWITCH PORT コマンド

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)


SET SWITCH PORT コマンドの EGRESSLIMIT の説明に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正します。

【誤】 該当ポートの送信レート上限値 (帯域制限機能)。指定可能な値の範囲は 0 ~ 2641248Kbps。ただし、指定値が 648 の倍数でない場合は倍数になるよう丸められる。NONE および 0 は帯域を制限しないの意味になる。EGRESSLIMIT の値は、パケットをスイッチ内部のキューから送り出すときのデータレートであり、フレームヘッダーやトレーラーは含まない。デフォルトは NONE。

【正】 該当ポートの送信レート上限値 (帯域制限機能)。指定可能な値の範囲は 0 ~ 127000Kbps。ただし、指定値が 648 の倍数でない場合は倍数になるよう丸められる。NONE および 0 は帯域を制限しないの意味になる。EGRESSLIMIT で指定した値は、Ethernet ヘッダー (14Byte) と FCS (4Byte) を含んだフレームの帯域となる (プリアンブルやギャップは含まない)。デフォルトは NONE。


EGRESSLIMIT パラメーターに指定可能な上限値は、ポートの最大帯域に関わらず、すべてのポートにおいて 127000Kbps となります。

6.18 ポートトランキング

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)

ルーティング後トランクグループから送信される IP パケットの送出ポートは、ENABLE / DISABLE SWITCH HASH コマンドの設定とは関係なく、L3 ヘッダー情報にのみ基づいて決定されます。その他のパケットには、同コマンドの設定が適用されます。

6.19 IP サブネット VLAN

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「バーチャル LAN」](#)


IP サブネット VLAN の設定を行う場合は、下記のようなハードウェアパケットフィルターを適用して、ARP パケットが CPU に転送されるよう設定してください。この設定を行わない場合、IP サブネット VLAN の所属ポートで受信した ARP パケットが IP サブネット VLAN 所属として扱われず、ポート本来のタグなし VLAN 所属として扱われてしまいます。

```
CREATE CLASS=1 ETHF=ETHII-UNTAGGED PROT=0806
ADD SWITCH HWF=1 CLASS=1 ACTION=DISCARD,COPY
```

※ フィルター番号、クラシファイア番号は適宜変更してください。


※ DISCARD,COPY アクションはサポート対象外のパラメーター値です。本現象を回避する以外の目的では使用しないでください。

6.20 マルチプル VLAN (Private VLAN)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「バーチャル LAN」](#)


マルチプル VLAN (Private VLAN) のプライベートポートでは、ARP パケットの処理が行えないため、DHCP、SNMP、Telnet、IP ルーティングなど、本製品との通信が必要な機能は使用できません。

6.21 MAC アドレス登録数

 [「取扱説明書」](#) 143 ページ [「本製品の仕様」](#)


取扱説明書には、MAC アドレス登録数が「15K (最大)」と記載されていますが、正しくは「16K (最大)」です。

6.22 クラシファイアの割り当てについて

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「クラシファイア」](#)

1 つのクラシファイアをハードウェアパケットフィルタとポリシーベース QoS の両方に割り当てないでください。このような設定をすると、ハードウェアパケットフィルタに割り当てたクラシファイアしか機能しません。


6.23 QoS

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「QoS」](#)

高速なポートの配下から低速なポートの配下に Ping を実行した場合、フラグメント化されたパケットをロスする場合があります。そのようなときは、次のコマンドを実行して、Tail-drop 時の最大キュー長を大きくしてください (デフォルトは 30KByte)。


```
SET QOS RED=1 STOP1=100k
```


6.24 ハードウェアパケットフィルタ

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ハードウェアパケットフィルタ」](#)

- CREATE CLASSIFIER コマンドで「IPPROTOCOL=IGMP」を条件に含めても、IGMP パケットをフィルタリングできません。
- ハードウェアパケットフィルタのアクションに SETL2QOS を指定すると、IP TOS 値が 0 に書き換えられます。

6.25 DHCP Snooping

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「DHCP Snooping」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ハードウェアパケットフィルタ」](#)

- コマンドリファレンスに記載されている SHOW DHCPSPNOOPING DATABASE コマンドの表示項目説明を下記のとおり補足・訂正します。

[Entries with client lease but no listeners セクション]

誤 :

CLASSIFIER モジュールとの連携がうまくいかなかったなどの理由で現在無効となっているクライアントの登録情報が表示される

正：

DHCP サーバーからの DHCP ACK パケットが DHCP クライアントに転送されたが、該当する Listener (CLASSIFIER) が存在しない、もしくは CLASSIFIER モジュールに何らかの問題が発生したためそれが利用できない場合に、クライアントの登録情報が表示される

[Entries with no client lease and no listeners セクション]

誤：

DHCP メッセージに問題があったなどの理由で現在無効となっているクライアントの登録情報が表示される

正：


DHCP メッセージに問題があったなどの理由で、DHCP サーバーからの DHCP ACK パケットが DHCP クライアントに転送されなかった場合に、クライアントの登録情報が表示される

- DHCP Snooping 機能で登録できるクライアントの数は次のとおりです。

本製品では、1 ポートあたり最大 100 クライアント、システム全体では最大 520 クライアントまで登録できます。


なお、本機能はハードウェアパケットフィルタと記憶領域を共有しているため、本機能の使用によってハードウェアパケットフィルタの設定可能数が増減します。設定可能なフィルタの数は、システムテーブルの空き容量に依存します。システムテーブルの空き容量は SHOW SWITCH コマンドで確認できます。

6.26 IP 統計情報

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


本製品では、IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inHdrErrors カウンターがカウントされません。

6.27 ICMP メッセージ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


本製品は ICMP Redirect メッセージを送信しません。

6.28 ICMP Echo Request パケット

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


本体宛 ICMPv4/v6 Echo Request パケットの ICMP チェックサムフィールド値が「0xffff」である場合、同フィールドの値が「0x0000」であると見なしてチェックサムを検証します。

6.29 UDP ブロードキャストヘルパー機能 (サポート対象外)

 **参照** 「取扱説明書」 109、110 ページ
「VLAN 間でネットワークコンピューターが見えるようにする」


取扱説明書には UDP ブロードキャストヘルパー機能についての記載がありますが、実際にはサポート対象外となりますので、訂正してお詫びいたします。

6.30 ADD IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ADD IP ROUTE コマンドで METRIC を指定すると、METRIC 値は METRIC1 として設定されてしまいますが、動作に影響はありません。

6.31 SET OSPF コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

SET OSPF コマンドの RIP パラメーターに EXPORT か BOTH を指定し、OSPF の経路情報を RIP 経路に取り込む設定をした場合、元となる OSPF 経路のメトリック値によって RIP で通知される経路のメトリック値は次のようになります。

- ・ OSPF メトリック値が 8 未満の場合：RIP でもそのまま通知
- ・ OSPF メトリック値が 8 以上の場合：RIP ではメトリック値を 8 に固定して通知

6.32 BGP-4

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

ADD/SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX に OFF 以外の値を指定し、なおかつ、MAXPREFIXACTION パラメーターに TERMINATE を指定している場合、該当ピアからの受信プレフィックス数が MAXPREFIX を超過すると BGP セッションを切断しますが、その後ただちにセッションを再確立しようとするため、TCP SYN パケットを繰り返し送出することがあります。

6.33 ADD BGP PEER コマンド、SET BGP PEER コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

コマンドリファレンスに記載されている ADD BGP PEER コマンド、SET BGP PEER コマンドの REMOTEAS パラメーターの設定値を下記のとおり訂正します。

[REMOTEAS パラメーター]

誤：

REMOTEAS=1..65534

正：

REMOTEAS=1..65535

6.34 SET IP AUTONOMOUS コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

コマンドリファレンスに記載されている SET IP AUTONOMOUS コマンドの AUTONOMOUS パラメーターの設定値を下記のとおり訂正します。

[AUTONOMOUS パラメーター]


誤：

AUTONOMOUS=1..65534

正：

AUTONOMOUS=1..65535

6.35 DNS キャッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

コマンドリファレンスに記載されている名前解決概要の DNS キャッシュを下記のとおり補足・訂正します。

[DNS キャッシュ]

誤：

■キャッシュエントリーの有効期限は SET IP DNS CACHE コマンドの TIMEOUT パラメーターで設定します。有効範囲は 1 ～ 60 分。デフォルトは 30 分です。

SET IP DNS CACHE TIMEOUT=15

正：

■キャッシュエントリーの最大有効期限は SET IP DNS CACHE コマンドの TIMEOUT パラメーターで設定します。有効範囲は 1 ～ 60 分。デフォルトは 30 分です。

SET IP DNS CACHE TIMEOUT=15

Note-DNS サーバーからの応答に含まれる有効期限が本パラメーターで設定した値よりも大きかった場合に本設定の時間が適用されます。

6.36 SET IP DNS CACHE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

コマンドリファレンスに記載されている SET IP DNS CACHE コマンドのコマンド説明と TIMEOUT パラメーターの説明を下記のとおり訂正します。

[コマンド説明]

誤：

DNS キャッシュに保持するエントリーの最大数と、キャッシュエントリーの有効期限を変更する。

正：

DNS キャッシュに保持するエントリーの最大数と、キャッシュエントリーの最大有効期限を変更する。

[TIMEOUT パラメーター]


誤：

DNS キャッシュエントリーの有効期限。キャッシュに登録後、有効期限内に更新されなかったエントリーは削除される。デフォルトは 30 分。

正：

DNS キャッシュエントリーの最大有効期限。DNS サーバーからの応答に含まれる有効期限が本パラメーターで設定した値よりも大きかった場合に適用される。キャッシュに登録後、有効期限が経過するとエントリーは削除される。デフォルトは 30 分。

6.37 Ping ボーリング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「Ping ボーリング」

コマンドリファレンスに記載されている ADD PING POLL コマンド、DELETE PING POLL コマンド、DISABLE PING POLL コマンド、DISABLE PING POLL DEBUG コマンド、ENABLE PING POLL コマンド、ENABLE PING POLL DEBUG コマンド、RESET PING POLL コマンド、SET PING POLL コマンド、SHOW PING POLL コマンドの POLL パラメーターの設定値を下記のとおり訂正します。

[POLL パラメーター]


誤：

poll-id: Ping ボーリング ID (1 ~ 100)

正：

poll-id: Ping ボーリング ID (1 ~ 250)

6.38 ルーター通知 (RA)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

システム再起動により IPv6 インターフェースがダウンした場合は、Lifetime=0 のルーター通知 (RA) パケットを送信しません。

6.39 DVMRP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」(古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目) には対応しておりません。


6.40 PIM-DM/PIM-SM

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェアパケットフィルターを設定し、PIM パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
CREATE CLASS=1 IPPROTOCOL=103
ADD SWITCH HWF CLASS=1 ACTION=SETL2QOS PRIORITY=7
```

6.41 SHOW IGMP Snooping コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

SHOW IGMP SNOOPING コマンドで COUNTERS オプションを指定するときは、次の書式に
しがたい VLAN オプションを同時に指定してください。

(VLAN は COUNTERS よりも前に指定する必要があります)

```
SHOW IGMP SNOOPING VLAN={vlanname|1..4094|ALL} COUNTERS
```

6.42 PIM6-SM

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「PIM」

マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM6 パケットを処理できず、マルチキャスト通
信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェアパケットフィル
ターを設定し、PIM6 パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
SET SWITCH CPUTXPRIO=7
SET SWITCH CPUTXQUEUE=7
CREATE CLASS=1 MACDADDR=33-33-00-00-00-0d ETHF=ETHII-UNTAGGED PROT=86dd
CREATE CLASS=2 MACDADDR=33-33-00-00-00-0d ETHF=ETHII-TAGGED PROT=86dd
ADD SWITCH HWF CLASS=1 ACTION=SETL2QOS L2QOSQUEUE=7
ADD SWITCH HWF CLASS=2 ACTION=SETL2QOS L2QOSQUEUE=7
```

7 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外です。

なお、以下の一覧に記載がなくとも、最新のコマンドリファレンスに記載されていない機能、
コマンドはサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。最新マニュアルの入手先
については、次節「最新マニュアルについて」をご覧ください。

○ **以下のキーワードを含む全コマンド**

ENABLE、ADD、SET、SHOW などの後に [?] キーを押すと表示される機能別キ
ーワードです。

ACC, APPLETALK, BRI, CLNS, DHCP6, ETH, FIREWALL, FRAMERELAY, GARP,
GRE, GUI, HTTP, IPSEC, IPX, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LLDP,
LOADBALANCER, LB, MACFF, MIOX, PKI, PPP, PPPOE, Q931, RSVP, SA,
SERVICE, SKEY, SSL, STACK, STAR, STARTUP, STREAM, STT, SYN, TACACS,
TACPLUS, TEST, TPAD, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3, VOIP

○ **以下のコマンド (パラメーター)**

COPY/DUMP/MODIFY
SET/START/STOP PKT
SHOW BUFFER [SCAN[=ADDRESS] [QUEUEPOINTERS]]
SHOW SYSTEM TEMPERATURE
LOAD [METHOD=LDAP] [ATTRIBUTE] [BASEOBJECT]
TRACE [ADDRONLY]
PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS]
[OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]

SET PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS]
[SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE
PURGE PING TOTALLY
DISABLE/ENABLE/SHOW SWITCH ACCELERATOR DEBUG
SET/SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH TABLE
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH PORT [JUMBO] [SPEED={xxxMHAUTO ; xxxMFAUTO}]
DISABLE/ENABLE SWITCH BIST
SET VLAN VIRTACTIVATION
ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER
ADD/SET IP ROUTE FILTER [POLICY]
ADD/DELETE/DISABLE/ENABLE/SET/SHOW IP EGP
ADD/DELETE/DISABLE/ENABLE/SHOW IP HELPER
ADD/DELETE/SET/SHOW IP SA
ADD/SET IP INTERFACE [GRATUITOUSARP] [VJC] [FILTER] [POLICYFILTER]
[PRIORITYFILTER] [MULTICAST] [IGMPPROXY]
CREATE/DESTROY/SHOW IP POOL
DISABLE/ENABLE/SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP CACHE
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP FLOW
DISABLE/ENABLE IP FOFILTER
DISABLE/ENABLE IP MULTICASTSWITCHING
DISABLE/ENABLE IP SRCROUTE
ADD IP ROUTEMAP [MATCH TAG]
ADD IPV6 INTERFACE IPADDRESS={DHCP;DHCPTEMP;PD} [APPINT] [HINT]
[KEY] [FILTER] [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 INTERFACE [FILTER] [PRIORITYFILTER]
ADD/DELETE/SET/SHOW IPV6 FILTER
SHOW IPV6 MULTICAST
DISABLE/ENABLE IPV6 FLOW
ADD/SET PIM6 INTERFACE [MODE=DENSE] [SRCAPABLE]
SET PIM6 [SOURCEALIVETIME] [SRINTERVAL]
SHOW PIM6 [STATEREFRESH]
ADD/DELETE/SET DVMRP [DLC]
ADD/DELETE/SET DVMRP INTERFACE [DLC]
DISABLE/ENABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES ; HMAC ; JOBPROCCESING ; PRED ; STAC ;
USER ; UTIL}
DISABLE/ENABLE QOS DEBUG
ADD/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE] [DLCI]
DELETE PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRESH]
ADD/SET PIM BSRCANDIDATE [HASHMASKLENGTH]

```
SET BOOTP MAXHOPS
DISABLE/ENABLE DHCP [BOOTP]
DISABLE/ENABLE DHCP Snooping STRICTUNICAST
ADD/DELETE DHCP Snooping BINDING [ROUTER]
ADD/DELETE/ENABLE/SHOW DHCP Snooping XLA
DISABLE/ENABLE DHCP Snooping IPFILTERING
ADD/SET OSPF AREA [NSSA TRANSLATOR] [NSSA STABILITY]
DISABLE/ENABLE MSTP CIST PORT
DISABLE/ENABLE MSTP DEBUG MSTI
DISABLE/ENABLE MSTP MSTI PORT
SHOW MSTP DEBUG MSTI
ADD/DELETE IGMP Snooping VLAN ROUTERPORT
SET IGMP Snooping VLAN QUERY SOLICIT
SET/CLEAR TIMEZONE
SHOW TIME RTC
```

8 最新マニュアルについて

最新の取扱説明書「CentreCOM 8948XL 取扱説明書」(J613-M0021-10 Rev.A)、コマンドリファレンス「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.9」(J613-M0021-12 Rev.L)は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、これらの最新マニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>